

## イラン地域研究基本文献案内

### イラン地域概観

- ① 上岡弘二（編）、『暮らしがわかるアジア読本 [イラン](#)』、河出書房新社、1999年
- ② 岡田恵美子、北原圭一、鈴木朱里（編著）、『[イランを知るための65章](#)』、明石書店、2004年
- ③ 森 茂男（編）、『[イランとイスラム—文化と伝統を知る—](#)』、春風社、2010年
- ④ 津田 元一郎、『[アフガニスタンとイラン—人とところ—](#)』、アジア経済研究所（アジアを見る眼 52）、1977年
- ⑤ 鈴木 均（編著）、『[ハンドブック 現代アフガニスタン](#)』、明石書店、2005年

①、②、③は何れも、20名前後のイラン（イラン地域）の専門家が、それぞれの専門分野から分かりやすく、トピック風に説明した入門書。④は、かなり前に書かれたものであるとはいえ、率直な現地印象から、文化の基層に迫る鋭い考察を示している。⑤は現在のアフガニスタンを知る上では大変便利な一書。

### イラン地域通史

- ⑥ 永田 雄三（編）、『[西アジア II イラン・トルコ](#)』（新版 世界各国史 9）、山川出版社、2002年
- ⑦ ヴィレム・フォーヘルサング（著）、前田耕作、山内和也（監訳）、『[アフガニスタンの歴史と文化](#)』、明石書店、2005年

日本語で書かれたイラン地域の通史は残念ながらほとんどないが、⑥は最もまとまったもので、かつ入手しやすい。一方、アフガニスタンに関しても、現在のところ、邦語による然るべき通史は無いに等しいが、⑦はそうした意味で、大変ありがたい一書である。

### イラン現代史とイスラーム革命

- ⑧ 八尾師 誠（著）、『[イラン近代の原像—英雄サッタール・ハーンの革命—](#)』、東京大学出版会、1998年
- ⑨ 吉村 慎太郎（著）、『[イラン現代史 - 従属と抵抗の100年 -](#)』、有志舎、2011年
- ⑩ 桜井啓子、『[現代イラン—神の国の変貌—](#)』、岩波書店（新書）、2001年
- ⑪ 富田健次（著）、『[アーヤトラーたちのイラン—イスラーム統治体制の矛盾と展開—](#)』、

第三書館、1993年

- ⑫ 鈴木 均 (著)、『[現代イランの農村都市—革命・戦争と地方社会の変容—](#)』、勁草書房、2011年

イラン近現代史を考える場合、現在のイランの起点ともいえるべき1979年のイスラーム革命の歴史的な位置を考察することを抜きには語れない。⑧は国民国家イランの形成、展開という視点から、⑨は西欧列強との関係を軸に、イスラーム革命の意味を考察した研究である。⑩、⑪、⑫は、それぞれ、専門の分野からイスラーム革命の実態に迫った著作である。

#### 地域関係の個別テーマ

- ⑬ 原 隆一 (著)、『[イランの水と社会](#)』、古今書院、1997年  
⑭ 八尾師 誠 (編著)、『[銭湯へ行こう・イスラム編—お風呂のルーツを求めて—](#)』、TOTOP出版、1993年  
⑮ 岡崎 正孝、『[カナート—イランの地下水路—](#)』、論創社、1988年

イラン（イラン地域）に住まう人々の生活の特徴を側面として、人と水との関わりがある。⑬はモノグラフではあるが、農業や農村に暮らす人々と水とのかかわりを分かりやすく叙述した研究書であり、⑭は風呂文化に着目した論文集。⑮はイラン（イラン地域）を特徴づけるカナートについてわかりやすく解説した好著である。

#### その他

- ⑯ 佐々木 徹、『[アフガンの四季](#)』、中央公論社（中公新書）、1981年

アフガニスタンが激動の時代に突入する時期にカーブルに留学した著者の留学記。高い文章力に支えられ、かならずや読者を魅了するであろう一書である。少し古いですが、入手はそれほど難しくはない。

(2013年9月 八尾師 誠)